

政党各位

米の検査規格（カメムシ斑点米）の見直しについて アンケートのお願い

総選挙に向けてマニフェストが発表されております。農政には諸課題が山積みですが、マニフェストには上がっていない、農薬使用を減らすために不可欠な、農産物検査規格における「着色粒規格」の見直しについて、貴党の見解をお示しいただきたく、アンケートを送らせていただきます。

*** **

農産物検査法に基づいて定められた告示「農産物規格規程」により、米の検査が実施されていますが、同規格規程のうち、「品位（等級）検査」の「着色粒（斑点米）」の異常に厳しすぎる規格が農薬散布を助長しています。

同規格では、カメムシ吸汁痕による斑点米の存在が1000粒に1粒（0.1%）を超えると等級落ちします。そのために価格が大幅に下がり、斑点米の多寡は米作農家の所得に大きく影響します。病虫害防除所や農協、農業改良普及所では「カメムシ発生注意報・警報」を発表するなどして斑点米を減らすよう米作農家を指導し毎年、過剰なくらいのカメムシ防除のための農薬散布を奨励しています。また、カメムシ防除に使われる農薬がミツバチの激減の主な原因として疑われています。生態系破壊や環境汚染を招き、食の安全を求める時代の流れに逆行する、農薬の大量散布がこの斑点米の検査規格に起因して行われているのです。別言すれば、これは「制度が強いる不要な農薬散布」と言えましょう。

斑点米があっても安全性にも味にも影響がまったく問題ありません。斑点米の多寡による等級規格は「見栄えのための規格」であり、しかも、現在では「色彩選別機」の発達・普及により等級落ちした米から着色粒を除去し、1等米と同等の品位にすることが可能となっています。わたしたち「米の検査規格の見直しを求める会」は、農薬使用を助長する検査規格を改めるよう求めてまいりました。

その一環として、わたしたちはこのたび「斑点米規格について」全国アンケート調査

を行いました。消費者アンケートでは47都道府県すべてから3,270件もの回答があり、コメントの数は702件に上りました。集約結果やコメントから、多くの消費者は、斑点米規格があることやそれによって過剰な農薬使用が助長されていることを知らなかったのですが、そのことを知った消費者は総じて、この規格を「有害で不要」と認識していることがわかりました。つきましては、以下のアンケートにご回答くださいますよう、お願い致します。

なお、恐縮ですが、ご回答は8月14日までに下記連絡先へファクシミリでお願い申し上げます。

結果は、「米の検査規格の見直しを求める会」の各賛同団体の機関紙やウェブサイトおよび記者発表などで公表させていただきます。

平成21年8月5日

米の検査規格の見直しを求める会

<賛同団体>

生き物共生農業を進める会・提携米研究会・日本不耕起栽培普及会・主婦連合会・日本消費者連盟・日本有機農業研究会・ネットワーク農縁・反農薬東京グループ・日本消費者連盟関西グループ・全日本農民組合連合会・お米の勉強会・各務原ワークショップ・日本雁を保護する会・市民の大豆食品勉強会・茨城アイガモ水田トラスト・食政策センター
ビジョン21

連絡先：日本消費者連盟 東京都新宿区西早稲田 1-9-19-207
電話：03-5155-4765 / FAX：03-5155-4767

☆☆☆ カメモシ斑点米規格についての政党アンケート ☆☆☆

米の検査におけるカメモシ斑点米（着色粒）規格について
（該当する番号に○をつけてください）

1. 斑点米（着色粒）規格を削除する
2. 規格を緩和する
3. 現行の規格を維持する
4. その他（_____）

政党名 _____ 記入日 _____

記入者 所属 _____ 記入者名 _____

連絡先 電話 _____ f a x _____

E-Mail : _____

8月14日までにファクシミリ **03-5155-4767** へご返信ください。